

えべつの未来づくりミーティング

～ 江別認知症の人の家族を支える会（かけはしの会）編 ～

令和4年5月30日（月） いきいきセンターさわかち2階研修室
午後2時～午後4時

1 江別市の「強み」「弱み」は

- ・弱みは、柱になるような産業がないこと。強みは、野幌原始林があるなど自然環境が良いところ。また、自分が住んでいる地域は高台で眺めが良く、「眺めが良くて、西に札幌市のまちは見える…」という詩を作ったこともある。自分の近所に住んでいる家族は市外から引っ越してきた子育て世帯が多く、統計でも子育て世帯が多く転入してきているということで、良いことだと思う。
- ・江別市内には、介護施設が多くあると思うが、施設が多くあるからか、介護保険料が高いのではないかと考えている。また、子どもの医療費助成の対象年齢が他の市に比べて低いと感じる。
- ・強みは、比較的スーパーマーケットが多いので、高齢者も自分で買物に行くことができること。札幌市に近く、土地が安いので、若い人の転入が多いことも強みだと思う。弱みは、市内を運行するバスの便が少ないこと。バスを利用している方には、少し不便なのではないかと思う。
- ・他市から転入してきた時、二番通り、三番通りと、沿道の花がきれいで、とても美しいまちだと思った。その地域の自治会の皆さんがきれいに管理されていたのだなど、今になって思っている。また、国道12号と275号がそれぞれ拡張されて、豊幌地区の方まで、とても車が走りやすく、交通の便利さを感じている。大雪の際も、JRを利用している夫は出勤できない日が一日間あったが、それでも便利だと思っている。弱みは、雪対策。取り組んでいると思うが、さらに良くなるよう、期待している。特に、子どもたちの通学路を確保するための除排雪を充実させてほしい。そうすれば、若い世代も、もっと安心して、子どもと一緒に住めるようになると思う。
- ・元気な高齢者が多い。また、高齢者が集い、活動できる機会や場所が充実していると思う。高齢者が元気に卓球や体操をしている姿を見ると、自分も負けていられないと思う。自分が住んでいる大麻地区は、自然が豊かな地域で、遊歩道が多い。車を心配せずに安全に歩くことができ、鳥のさえずりも聞こえるし、動物をいろいろ見ることもできる。自然を楽しめるまちであることが自慢。また、「広報えべつ」の内容が充実しており、毎月楽しみにしている。認知症のことも掲載されており、認知症への理解を深めることが大切であることを分かってもらっていると感じた。大雪は自然のことで仕方がないと思うが、除排雪をより充実してもらって、できる限り安全な生活を送りたい。高齢になると除雪も大変なので、地域の助け合いで、少しでも改善できればと思う。



・江別市は、認知症を勉強する機会が、全道の市町村の中でも大変多いと思う。市の担当者が頑張っており、自分たちも取り組んでいるが、相談窓口も充実していると思う。弱みは、大きな病院が少ないので、待ち時間が長いところ。また、これまで市内に宿泊できるホテルが少なく、この間、野幌地区に比較的大きなホテルができたが、宿泊の値段が高いと感じる。市外から来られた方に紹介する宿泊先や食事場所が少ないと感じている。

- ・江別市に転入してきて、自然環境が豊かで、スーパーマーケットが多く、住みやすいと感じた。また、大学が多いことが強みだと思う。自分が学生の時、大学があった市と大学が共同でスイーツを開発し、海外に売り込もうというプロジェクトに参加していたが、そのような取組が、江別市でもできるのではないかと思った。大学生に江別市を知ってもらい、市内で働いてもらうきっかけにもなるのではないかと思う。大学を卒業して市内で働く人が少ないと聞いているが、江別市でこのような取組を行っていますと大学生に伝える情報発信や取組のインパクトが弱いのではないかと思う。

2 認知症の方や、その家族に必要な地域での支援について

- ・認知症への理解を深めてもらえるように、小学生を対象とした演劇を計画しており、今、稽古をしている。ゆくゆくは江別市社会福祉協議会の後援を得て、市内の全小学校を回りたいと思っている。
- ・外出ができずに困っている家族の代わりに留守番をして、家族が外出できるように支援したり、一人暮らしの方にお会いして話をするなど、見守りをしている。このような「やすらぎ支援」を利用されている間に、認知症の改善が見られた方でも、その後、病院に入院することになり、さらに施設に入所されたと聞くと、残念に思うことがある。認知症の方と話をする時は、相手の話を否定しないことや、表情が乏しくなってくるので、一日一回は笑わせることなどを心掛けている。
- ・認知症の方は、話をしないと症状が進行する。認知症の方とその家族が通える地域サロンがたくさんあると思う。グループホームで行われているサロンに行くことがあるが、若年性認知症の方と話をすることが楽しい。そういうところがたくさんできたら、安心して自宅に住めると思う。認知症の方には、その方をよく理解し、良かった時期を聞き出して、その時期の話をするようにしている。認知症の方が笑顔で過ごすことができるほか、家族の方が困ったことを話すことができ、解決に結び付けてくれるようなサロンがあると良いと思う。
- ・「認知症ってなあに」という演劇プロジェクトを、昨年一年間考えて、今年には実行に移している。認知症の理解が深まるような内容の劇をつくり、小学校で演じたり、動画で配信したりすることを考えている。これまでは大人を対象としていたが、目線を下げて、小学校から認知症を理解してもらおうという考えで進めている。子どもにも認知症への理解が広がれば、地域で認知症の方が迷子になった時、子どもも声を掛けられるようになるのではないかと思っている。地域サロンは、かけはしの会でも実施しているが、拠点を広げていきたいと思っている。現在、地域サロンを実施しているところは、公共交通機関では行きにくい場所なので、交通の便の良い場所でできないかと思っている。また、江別市立病院に認知症外来ができたが、そういうところで、外来に合わせて、集いの場が設けられるとありがたい。また、地域サロンを実施する際、送迎の支援があるともっと参加者が増えると思うので、考えてもらえたらと思う。自分も高齢になってきたので、運転免許の返納を考えているが、返納した後はどうやって移動すればよいのだろうかと考えてしまう。他市のような、運転免許の返納後の助成があると良いと思う。



- ・高齢の認知症の方も多く、その家族も高齢の方が多い。施設に入所される方もいる一方で、自宅で看取る家族もいる。施設に入所したからと言って、介護が終わったわけではなく、施設にいても、在宅以上の心配を抱えている。そういう方々を久しぶりに誘って集いの会を開催したところ、予想以上に集まった。やって良かったと思った。集いの会には、認知症地域支援推進員や地域包括支援センターの方にも来てもらい、家族の方々の相談を聞いてもらい、悩みや不安の解消にもつながっている。また、一年に一回、家族のリフレッシュのためにバスで行く「ミステリーツアー」を開催

している。新型コロナウイルス感染症の流行もあったが、今年は久しぶりにツアーを実施しようと思っているが、ソーシャルディスタンスを保つ必要があるため、バス借上料などのコストが今まで以上にかかる。何かしら助成があると良いと思っている。参加されたご家族には、大変喜んでもらっている。そのほか、集いの会では、認知症地域支援推進員の皆さんと一緒に、認知症当事者の方が想いを話されている動画を見ることもあり、認知症当事者に対する理解を深める機会にもなっている。開催場所については、交通の便が良くない場所で開催する時には、タクシーで来られる方もいる。もっと交通の便の良い場所で開催することを考えていかなければならないと思っている。

- ・かけはしの会が誕生して30年経つが、まだまだ知られていない状況。今はホームページがないので、ホームページを作って、より積極的に情報発信をしようと考えている。江別市民に、もっと、かけはしの会の情報が行き届くようにしたい。江別市内に情報が浸透すれば、企業が支援してくれることにもつながるかもしれない。

- ・祖母が認知症になって、コロナ禍の中、両親が祖母のいるところに会いに行っていた。実家に帰ると、祖母の介護のことをいろいろ自分に話す両親を見て、家族は誰かに話を聞いてほしいものさだということを感じ、聞き役に徹した。その頃、認知症についての講座が江別市で開催されており、参加したことによって、正しい知識を持って傾聴することが大事であることを学ぶことができた。認知症について、直接知識を得られる場があることは幸せなことであり、今後も学ぶ機会を提供することを続けてほしいと思う。家族が、もしかしたら認知症かもしれないと思った時、インターネットで調べても何をしたら良いのか分かりづらい。そういうことを、小学生に分かるようにと取り組まれていることは、本当に素晴らしいことだと思う。ぜひ積極的に情報発信してほしい。



3 人口減少が進む中で、江別市が力を入れるべき分野について

- ・江別市立病院の収支改善については、江別市民として心配しており、できるだけ江別市立病院を利用しようと、周りの方にも働きかけている。また、江別市役所は老朽化が進んでおり、冬場にはトイレは冷たくて使えない。一市民として、本庁舎を早く建て替えてほしい。江別市民会館も、非常に老朽化していると思う。
- ・みんな、雪の処理に困っている。石狩川の水を使って融雪するなど、時間がかかるかもしれないが、考えてほしい。自然と仲良くしながら自然を克服することを、若い世代で考えてほしい。



- ・サービス付き高齢者向け住宅で暮らしていた母が骨折して入院し、特別養護老人ホームに入所した後、再び入院して、医療的ケアが受けられる施設に入所した。その間、家族の希望を伝えることもできず、いろいろと場所が変わっていく状況だった。こういう時に、家族の希望を聞いてくれて、適切に移動場所をつなげていくことを総合的に支援してくれる人や機関があれば良いと思った。
- ・独居の方が多く、空き家や団地の空き室を利用して、シェアハウスのように、住める場所をつくってはどうか。認知症になって介護サービスを受けながら生活することになっても、シェアハウスのようなところならば、話し相手もいて、独居の場合より不安も解消される。学生も多いまちなので、学生も一緒に住めるようにすることも考えられる。また、地域サロンにもつながるのでと考えている。そういう取組をデイサービスのように実施しているところもあるので、江別市でも考えてほしい。
- ・ますます長寿社会になる中、認知症の方も増えていく。いかに在宅支援をしていくかを考えると、「やすらぎ支援」は重要だと思う。「やすらぎ支援」の情報を「広報えべつ」に掲載するだけでなく、介護事業所の方にも紹介し、利用を勧めていただきたいと考えている。「やすらぎ支援」によって、家族の方はわずかでも自分の時間を持つことができるので、担う役割は大きいと思う。

- ・高齢者が増える中、高齢者にやさしいまちであってほしい。新型コロナウイルスのワクチン接種の予約方法は、ワクチン接種が一番必要な高齢者にとって、やさしくないと思った。インターネットでの予約もなかなかつながらなかったが、2回目以降はとて改善されていて、江別市の対応は素晴らしかった。自分には孫がいるので、予約を手伝ってもらい助かったが、地域の全てのお年寄りを助けられるようにならないといけないと思う。自分も頑張るが、認知症の方も含め、高齢者にやさしいまちづくりをしてほしい。
- ・一人暮らしの高齢者の火災死が増えている。認知症初期段階の方かもしれない。江別市では増えていないようだが、今後は懸念される。死亡状況や出火先だけではなく、どういう原因で火事になったのかという情報も、もっと詳しく伝えてほしい。予防につながると思う。
- ・人口の社会増を維持していくことが、人口減少の抑制につながると思う。そのためには、今住んでいる人を大切にすることがまず重要で、子育て世帯への支援や高齢者を大切にすることが大事だと思う。そうすれば、今住んでいる人たちから、江別市での暮らしやすさが徐々に広まり、「江別市に住もうかな」と、江別市を選ぶ人が増えるのではないだろうか。若い世代はスマートフォンから情報を得ることが多いと思うので、それを意識した情報発信に力を入れることも大事ではないかと思う。若い人が増えて、認知症への理解も広まり、交流が増えれば、みんなで認知症の人を見守ることもできると思う。

